

(2) 高齢者における褥瘡対策の実施率

分子：分母のうち、「褥瘡患者管理加算」あるいは「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」が算定された患者数

分母：入院時に褥瘡あるいは褥瘡の危険因子がある 75 歳以上(入院時)の退院患者数。

褥瘡の危険因子は、栄養失調有、関節拘縮有、浮腫有、移乗や平地歩行で全介助のいずれかとする。ただし、片麻痺、下肢の単麻痺、四肢麻痺、無酸素脳麻痺、胸部二分脊椎、腰部二分脊椎、仙骨部二分脊椎、二分脊椎、潜在性二分脊椎のうち、いずれか 1 つ以上の傷病がある患者、および退院時転帰が死亡であった患者は除外。

収集期間：平成 23 年 7 月～平成 23 年 12 月

褥瘡は、身体の接触面から受ける圧迫により、局所の皮膚の血流が悪くなり壊死を起こして発生する難治性の潰瘍です。急性期病院における治療では、手術室や病床において長時間同じ体位におかれることで発生することもあります。褥瘡の発生は、患者さんの療養生活の質を大きく低下させ、在院日数の長期化にもつながります。種々のリスクを持つ患者さんにおける褥瘡の発生を完全に予防することは困難です。しかしながら、褥瘡対策チームを設置し、患者さんのリスクを評価した上で適切な褥瘡対策を実施することで、褥瘡の発生率を低下させることは可能です。本指標はそのような活動を評価するものです。

指標 4：高齢者における褥瘡対策の実施率

医療機関コード	医療機関名	母数	分子	割合
060113656	済生会山形済生病院	350	301	86.0%
080110205	水戸済生会総合病院	322	230	71.4%
096210115	済生会宇都宮病院	450	244	54.2%
100110144	済生会前橋病院	184	126	68.5%
110201350	済生会川口総合病院	149	77	51.7%
111101922	済生会栗橋病院	240	135	56.3%
120210971	済生会習志野病院	297	233	78.5%
130314757	済生会中央病院	271	183	67.5%
140105122	済生会横浜市東部病院	380	77	20.3%
143103439	済生会横浜市南部病院	197	109	55.3%
150120734	済生会新潟第二病院	226	136	60.2%
160115667	済生会富山病院	240	170	70.8%
160212605	済生会高岡病院	215	144	67.0%
170117068	済生会金沢病院	92	31	33.7%
180118909	福井県済生会病院	412	248	60.2%
224160042	静岡済生会総合病院	570	372	65.3%
240705053	済生会松阪総合病院	361	243	67.3%
251200194	済生会滋賀県病院	349	273	78.2%
269700129	済生会京都府病院	244	127	52.0%
271607149	済生会千里病院	270	209	77.4%
272701586	済生会泉尾病院	103	25	24.3%
274205628	済生会茨木病院	132	19	14.4%
274900723	済生会富田林病院	126	96	76.2%
279600070	済生会中津病院	204	47	23.0%
279600120	済生会野江病院	283	15	5.3%
279600153	済生会吹田病院	340	207	60.9%
285001538	済生会兵庫県病院	87	72	82.8%
290102017	済生会奈良病院	54	20	37.0%
290401062	済生会中和病院	236	194	82.2%
338800012	岡山済生会総合病院	551	15	2.7%
343111190	済生会広島病院	305	186	61.0%
350116357	済生会下関総合病院	299	146	48.8%
350310141	済生会山口総合病院	304	180	59.2%
401119189	済生会福岡総合病院	404	124	30.7%
401719020	済生会二日市病院	432	195	45.1%
406619050	済生会八幡総合病院	536	222	41.4%
438211911	済生会熊本病院	1373	1166	84.9%
	合計	11588	6597	56.9%